

## 天声人語

東京都文京区の住宅街に「切支丹屋敷跡」と書かれた碑がある。通り過ぎそうになるほど目立たない。異教を禁じた江戸幕府が拷問の末に棄教させた宣教師らをこの屋敷に幽閉した▼17世紀の日本に潜入り、捕らわれたジュゼッペ・キアラ神父もそのひとり。80代で亡くなるまで40年暮らした。遠藤周作氏は彼をモデルに小説『沈黙』を書いた。米巨匠スコセッシ監督によって映画化された。信者や神父に対するむごい拷問の場面に観客席で思わず呼吸が乱れた▼キアラは牢屋で数々の責めを受ける。先に日本で捕らわれ、棄教したかつての師フエレイラがこう迫る。「お前たちが苦しめられても神は黙っているではないか」▼身を裂くような葛藤のはてに踏み絵に足を置いてしまう。岡本三右衛門という名と妻を与えられ、江戸の切支丹屋敷に押し込められる▼彼の墓碑は東京都調布市のカトリック教会の一角にたたずむ。そばの資料館のガエタノ・コンブリ館長(86)は日本に来て60年余り。昨春、イタリア・シチリア島にあるキアラの故郷を訪ねた。現地で見た肖像画には「日本で布教に努めたが、住民からとがつた竹で首を刺されて帰天した」と説明文があった。キアラが棄教者ではなく殉教者と語り継がれてきたことに驚いた▼「転んだことをキアラは後悔しながら暮らした。でも信仰は最期まで捨てなかつたのでしよう」とコンブリさん。「転びバテレン」の汚名に耐えたキアラが晩年まで胸に隠し続けた矜持に思いをはせた。

2017・1・24